

ストラスブール研修で獲得したこと

文学部 2年 Y.S.

私は今回、3月4日から18日までの2週間で行われた、ストラスブール大学短期フランス語研修に参加した。これまで海外に行ったことのなかった私にとっては、これが初めての海外渡航であり、新鮮な驚きや発見がいくつもあった。また、見知らぬ土地で研修の仲間20人と共に2週間生活することは、私自身を様々な側面で成長させたと感じている。そこで、今回の研修で私が学んだこと、獲得したことについて3つ挙げる。

1つ目は、フランス語の言語能力である。2週間ストラスブール大学でフランス語の授業を受けたり、常に周りからフランス語が聞こえてくる環境に身を置いたりしたことで、2週間という研修期間の間にフランス語の力が以前より向上したことを実感することができた。ストラスブールに到着した初日に、寮の中にあるカフェで夜ご飯を食べた時、この時に初めて現地でフランス語を使うことになったが、メニューに何が書いてあるかもよくわからず、店員さんに何を聞かれているかもよくわからずプチパニックになってしまった。その場はなんとか乗り切ったが、言語が通じないという壁に打ちのめされ落ち込んだことを覚えている。しかし、2週間フランスで生活する中でフランス語を使うことに頭や耳が慣れ、買い物に行った時に何が書かれているかわかるものが増えたり、聞き取れる単語が増えたりした。最初は聞き取れなかった、寮のエレベーターの「*porte ouverte*：扉が開きます」「*porte ferme*：扉が閉まります」という自動音声で、毎日聞いているうちに明確に聞き取れるようになった時は、自分の成長が実感できとても嬉しかった。まだまだフランス語の能力は力不足ではあるが、わずかであっても確実に成長したといえるし、小さなことでもできるようになった時の喜びを学ぶことができた。

2つ目に私が獲得したことは、積極性である。一般的な話ではあるが、日本人はなかなか自分から積極的に発言したり行動したりすることは少なく、なんとなく周囲の空気を読んで行動する。私自身も、なかなか周りの様子を伺いながら行動することがあった。しかし、フランス人は自分の意見を持って自由に行動している人が多い。2週間のフランス生活の中で少なからずそれに影響される部分があった。ストラスブール大学での授業では、先生が、分からないことは積極的に質問してほしいと伝えてくれたため、私たちは分からないフランス語を頑張って理解しようと積極的に先生に質問するようになった。また、他の研修メンバーは授業で覚えたフレーズを積極的に使って習得しようとしていた。そのような環境の中で、自分もこの研修をより有意義なものにするために積極的にフランス語を使うようになったし、海外という貴重な場で色んな経験ができるように、積極的に挑戦するようになった。自分のやりたいことや、機会に恵まれたことに積極的に取り組むことはすごく楽しく、この研修をより充実したものにしたと考える。もちろん、状況や周囲を考慮することは必要

だが、周りに迷惑をかけない範囲で、自分の意思を大切に、向上心を持って行動する積極性はこれからの生活の中でも大切にしていきたいと思う。

私がストラスブールで獲得したことの3つ目は、新しい価値観である。2つ目で述べた積極性という面もそうだが、1番印象的だったのは、休みの考え方である。フランスの一般的な休日は金曜日の午後から日曜日である。日本ではまだ平日である金曜日の午後から、観光地である大聖堂周辺は人が多く活気にあふれていた。日曜日は多くの人が家族と過ごすため、お店も閉まっているところが多い。また、平日も24時間営業しているコンビニなどがある日本とは大違いで、多くのお店が20時など早くに閉店する。家庭の時間を大切にしていること、そして何より無理をしないで休むことを大切にしていることがすごく素敵なことだと感じた。日本では、利益や便利さを追求する中でどんどん業務時間が長くなり、それが当たり前になってきているが、それによって過労死などの問題が生じていることも考えると、日本の環境は当たり前ではないと痛感させられた。ストラスブールで生活した2週間の中で何度もフランス人と接してきたが、フランス人は細かいことであまり怒らず、とてもおおらかで優しいと感じた。それに対して日本人は、まじめで優しいが、細かいことまで気にして余裕がないようにも感じる。このことから、このような国民性は国の生活リズムに大きく影響を受けているのではないかと思った。働き過ぎで自分自身まで余裕をなくしストレスを強く感じてしまうような一面のある日本は、フランスと比較するととても生きづらいとさえ思ってしまう。これからも日本で生活していく上ではフランスと同じような生活リズムで生きることはできないが、新しく得た価値観を大切に、固定観念に縛られず、無理ばかりしないよう自分を大切にしながら生活していきたいと思った。

この研修では、住み慣れた日本を離れて2週間異国の地で生活することで、自分で考えて生活をしたり、日本とは異なる文化や慣習に触れながら刺激を受けたりすることができた。レポートに書ききれないくらい、毎日の全てのことが自分にとっての貴重な経験となっていたと感じる。そもそも、これまで海外に行ってみたくとあまり思わなかった私が、自分を変えたい、視野を広げたいとこの研修に申込み、いろんな経験をして2週間楽しく学び過ごしたことが私自身を一回り成長させたように思う。この研修に参加できたこと、研修を支えてくださった方々や、共に生活したり交流したりした仲間への感謝の気持ちと共に、この経験を大切にしたいと今後の生活に活かしていきたいと思う。



ストラスブールのノートルダム大聖堂